

## 情勢判断

### 今月の情勢 ~経済・金融の動向~

#### 米国金融・経済

12月17~18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、月額850億ドルの資産を買い入れてきた量的緩和策第3弾(QE3)を、14年1月から750億ドルに縮小することを決定した。また、政策金利(0~0.25%)については、今後も失業率が6.5%を上回り、向こう1~2年のインフレ見通しがFOMCの長期目標である2%から上下0.5%ポイント以内に収まると予想される限りは現行水準を維持するとされたほか、インフレ率が2.0%を下回り続けると予想される場合には、失業率が6.5%を下回った後も長期的にこの水準を維持するという方針が新たに加えられた。

経済指標をみると、11月の雇用統計では、失業率が7.0%と前月から0.3ポイント低下したほか、非農業部門雇用者数は20.3万人増と事前予測(18.5万人増、ブルームバーグ社集計)を上回った。このことから、景気回復期待が高まっている。

#### 国内金融・経済

11月20~21日の日銀金融政策決定会合では、マネタリーベースを年間約60~70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節(長期国債、ETF・J-REIT、CP・社債等の買入れ)を行うことを軸とし、これにより2年程度で2%の「物価安定目標」を実現することを目指す量的・質的金融緩和の維持を決定した。

経済指標をみると、日銀短観(12月調査)では、大企業製造業の業況判断IDが16と前回から4ポイント上昇したほか、中小企業・非製造業も上昇し、約22年ぶりの「良い」超となった。また、機械受注(船舶・電力を除く民需)の10月分は、前月比0.6%と2ヶ月ぶりに上昇した。さらに、10月の鉱工業生産指数(確報値)も前月比1.0%と2ヶ月連続で上昇したほか、製造工業生産予測調査でも11月が同0.9%、12月が2.1%とともに上昇が予想されている。このように、日本経済の緩やかな回復は継続しているとみられる。

#### 金利・株価・為替・原油相場

長期金利(新発10年国債利回り)は、日銀の長期国債買い入れオペの継続期待から、低下圧力の強い展開が続いており、概ね0.6%前後とボックス圏での推移となった。ただし、12月中旬には、株高・円安が進行したほか、QE3をめぐる思惑から米長期金利が上昇したこともあり、一時0.7%に迫る場面もみられた。

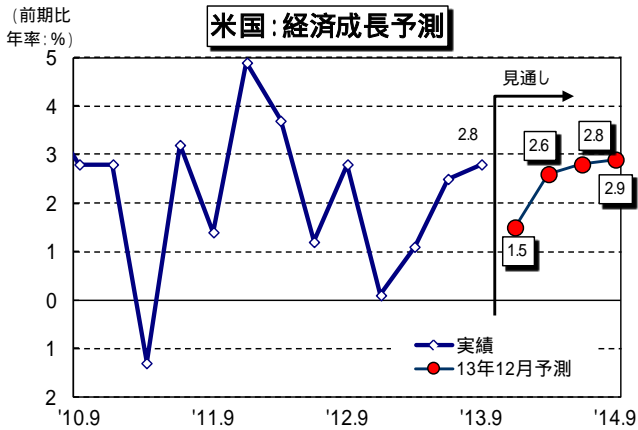
日経平均株価は、米国経済の回復期待の高まりや円安の進行を受けて上昇が続き、11月下旬には15,700円台を回復した。その後は過熱感から下落したものの、円安の進行等から底堅い動きとなった。12月中旬にはQE3の縮小決定により米国経済の回復期待が高まり、一時15,800円台と約7か月ぶりの高水準となっている。

ドル円相場は、米国経済の回復期待の高まりやQE3の縮小見通しに伴う米長期金利の上昇などを受けて円安・ドル高が進行。FOMCがQE3の縮小を決定した12月中旬には、一時1ドル=104円台となるなど、約5年ぶりの水準となっている。

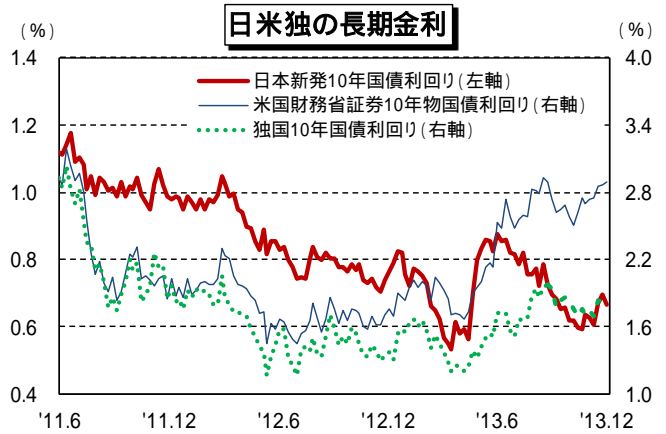
原油相場(ニューヨーク原油先物・WTI期近)は、シリア危機による供給不安が後退したことや、供給超過状態が続いていることなどを受けて弱含んでいたが、12月に入り、米国の景気回復期待が高まったことなどから、1バレル=98ドル前後まで上昇している。

(2013.12.19現在)

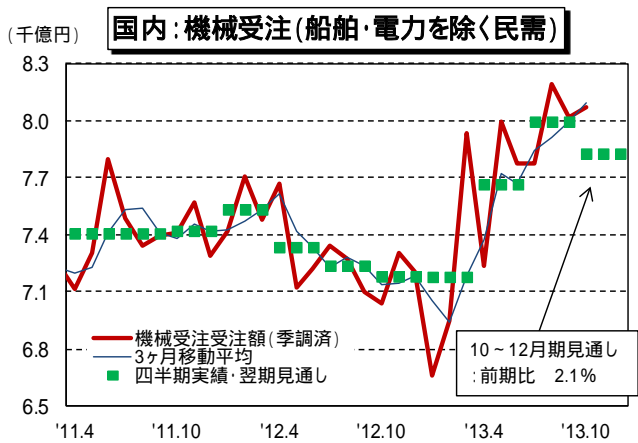
## 内外の経済・金融グラフ



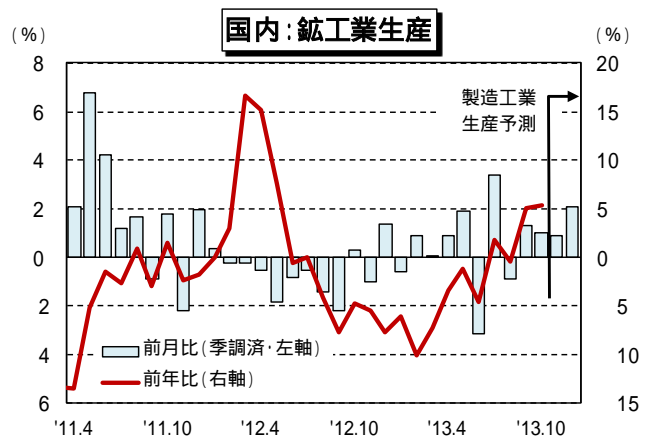
(資料) Bloomberg (米商務省) より作成。見通しはBloomberg社調査



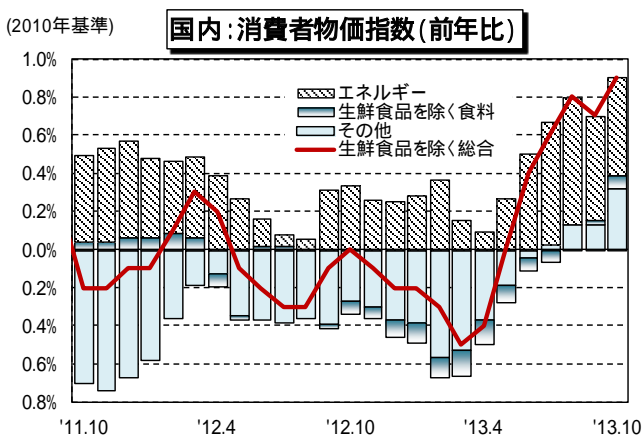
(資料) Bloombergより作成



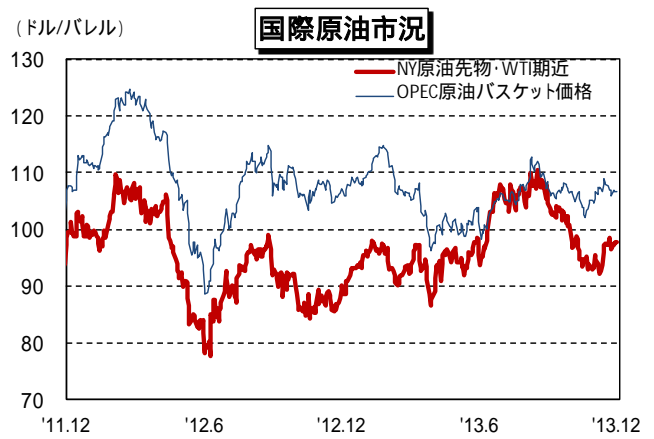
(資料) Bloomberg (内閣府「機械受注統計」) より作成



(資料) Bloomberg (経済産業省「鉱工業生産」) より作成



(資料) 日経NEEDS-FQ (総務省「消費者物価指数」) より作成



(資料) Bloombergより作成

詳しくは当社ホームページ (<http://www.nochuri.co.jp>) の「今月の経済・金融情勢」へ